

令和7年度 事業報告

1. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

1) 関連研究プロジェクト

(細川会長)

研究タイトル: 「“女子”と冠した日本女子体育連盟のこれからの役割と在り方を考える」

申請者: (公社)日本女子体育連盟理事会

研究背景: 近年、ジェンダー平等や、多様な性のあり方など、性についての捉え方や在り方が変化し、体育・スポーツ界においてもいかに対応していくかが問われている。そうした時代の変化の中で、団体名に「女子」を掲げ、特に女子体育の普及振興を目的に掲げてきた本連盟も、今一度連盟の名称や役割を再検討すべき時期にあるといえる。したがって、本プロジェクトでは、女子体育の普及振興に努めてきた本連盟の歴史的意義を振り返るとともに、今後担うべき役割と在り方を検討することを目的とする。

研究計画: 2025年度-2026年度の2年計画。

<概 要>

1年目(2025年度)は、「女子」と冠した体育・スポーツ団体などの動向、性に関する近年の学術的知見の収集等の情報の整理と分析を行った。また、本テーマに関して専門的知見を持つ研究者である来田享子氏(中京大学)をお招きし、「『女性・女子』というネーミングをめぐる議論-さらなるジェンダー平等に向けて-」と題した講演(2026年3月12日企画運営委員会時)を行なっていただき、多くの示唆を得た。

2) 加盟団体との共同研究

(細川会長)

実施せず。

3) 全国女子体育研究大会

(細川会長)

開催せず、今後の大会開催の在り方について検討を行った。

2. 女子体育に関する講習会及び育成事業

1) サマーセミナー

JAPEW SUMMER SEMINAR 2025-令和7年度夏期講座-

【公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業】

□生涯スポーツ研究/授業・保育専門委員会(佐藤副会長 宮本副会長 多田理事 高野理事)

期 日: 2025年8月18日(月)・19日(火)

会 場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

後 援: スポーツ庁 東京都 (公財)日本スポーツ協会 (公財)スポーツ安全協会
(公財)ミズノスポーツ振興財団 (公財)日本学校体育研究連合会

テーマ: 「ウェルビーイングとダンス」

内 容: 講演、講義、実技、実習等

参加者: 幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・短期大学・大学・専門学校・生涯スポーツ等の指導者及び関係者・大学生・大学院生等

参加費: 会員 13,200 円、一般 15,400 円、学生 7,700 円

1日のみ受講(学校体育のみ) 会員 7,700 円、一般 8,800 円、学生 4,400 円

※会員(正会員・特別会員・JAPEW-DMIL 指導員・『女子体育』年間購読者)

<概 要>

今回の生涯スポーツのサブテーマは「最幸舞台(さいこうステージ)～未来のための自分づくり～」、学校体育は「ダンスが広げる学びの場」を掲げて、全国で活動されている指導者の方々に向けて、開催した。

参加者の総数は192名。内訳は、生涯スポーツコースは139名(会員82名、一般45名、学生3名、養成9名)、学校体育コースは2日受講22名(会員12名、一般7名、学生3名)、1日のみ受講12名

(会員5名、一般5名、学生2名)、動画視聴19名(2日分15名、1日分4名)の計53名であった。

全ての講座を通して、生涯スポーツコースでは、様々なジャンルや曲調の異なる作品の良さを受講者と共有できる講習会となった。受講者からのアンケートには「それぞれの講座内容がリンクしており、テーマを裏付ける内容で素晴らしいかった」などの声が多く寄せられ、高評価を得ることができた。また、学校体育コースでは、スポーツ庁政策課教科調査官より改めて学習指導要領の趣旨とダンス教育についての示唆をいただいた上で、実践的な実技講習が実施されたことと、受講の機会を「対面」と「動画視聴」としたことに對して、受講者のアンケートでも好評を得ることができた。より多くの方に、本セミナーを活用いただけるよう工夫を続けたい。

本事業の詳細については、『女子体育』2026 冬号にて報告された。

プログラム：

8月18日(月)	9:15~	9:40~	10:15~11:45	13:10~14:30	14:40~16:00	16:10~16:50	19:00~20:00
	生涯スポーツコース 受付 (セ417)	J A P E W 員 表 彰 式・開 講 式	講演 『最幸舞台へのヒント〜90歳の壁を越す〜』 金井 美三枝	実技① ダンスムーブメント 『そこにある星』 篠 史美	実技② ダンスムーブメント 『押された背中 夢の舞台へ』 多田 五月	実技③ ダンスムーブメント ウールダウン 『Feel The Sky』 佐藤 廣子	復習コーナー
8月19日(火)	9:15~		10:45~11:45	13:10~14:50	15:00~16:40		
	学校体育コース 受付 (セ417)		講演 『学習指導要領の趣旨と学校体育が目指すもの』 綱島 毅	実技① 『いつのまにかダンス』 近藤 良平	実技② 『問いかけて動きを引き出す 現代的なリズムのダンス』 藤田 久美子/君和田 雅子		
8月19日(火)	8:45~	9:00~10:20	10:30~11:50	13:10~14:40	14:50~16:10	16:10~16:40	
	生涯スポーツコース 受付 (セ501)	講義 『Enjoy Danceで老化と認知症に ブレーキをかけよう!』 田中 喜代次	実習 『言葉のリズム』で 『まぎょんがく!』!! 富松 “まぎょ” 万里子	実技④ 『Stomp to the Beat 〜タップダンスで学ぶリズム基礎知識〜』 高嶋 雄一	実技⑤ ダンスムーブメント 『新しい伝統への挑戦 〜折傘とともに〜』 飯田 路佳	振り返り	閉講式
8月19日(火)	9:00~	9:30~11:30		13:00~14:40	14:50~16:30		
	学校体育コース 受付 (ス第3体)	実技③ 『すべての人と踊るために』 竹中 幸子		実技④ 『感覚と結びつく表現の世界 〜遊びから多様な感じの動きへ〜』 熊谷 佳代	実技⑤ 『ヒップホップダンスにおける 自己表現の広げ方〜基礎から個性へ〜』 赤堀 文也		閉講式

2)JAPEW 未来世代の研究発表会

第 69 回研究論文発表部門・卒業ダンス作品発表部門

□研究交流専門委員会(宮本副会長 長谷川理事)

期 日： 2026 年 2 月 11 日 (水・祝)

会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター (カルチャー棟 小ホール)

内 容： ①研究論文発表部門：卒業論文・修士論文・博士論文の口頭発表及びポスター発表
②卒業ダンス作品発表部門：卒業・修了学生によるダンス作品の発表及び招待作品上演

参加者： 大学生、教育関係者、会員、一般 合計 213 名

参加費： 発表者 1,000 円、参観者 500 円 (研究要旨集・ダンスプログラム代)

<概 要>

この発表会は、3 月に大学・大学院を卒業、修了する未来世代の若者による研究論文とダンスの発表会である。会場はカルチャー棟小ホールであり、口頭発表及びダンス発表を小ホール、ポスター発表を小ホールロビーにて行った。参加者は、論文発表者とダンス発表者を合わせて 107 名、論文発表聴講者及びダンス鑑賞者 70 名、指導教員・スタッフ等 36 名を含め、213 名であった。

研究論文発表部門は、口頭発表3題(修論2題、博論1題)、ポスター発表35題(卒論22題、修論13題)であり、12 大学の参加があった。口頭発表では、ポスター発表者、ダンス発表者も聴講し、論文発表に対する活発な質疑応答が行われた。ポスター発表では、多くの聴講者が並ぶなか、活気ある発表と質疑応答が交わされ、学生たちの交流する姿が印象的であった。

卒業ダンス作品発表部門は、8 大学 8 作品の参加であり、卒業を目前にした学生の思いが込められた作品が発表された。また、招待作品として、堀越高等学校ダンス部、平成国際大学ダンス部による第 37 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 創作コンクール部門受賞作品が披露され、好評を得ることができた。

本事業の詳細については、『女子体育』2026年夏号にて報告予定である。

3)JAPEW ダンスムーブメントセミナー

第19回 JAPEW ダンスムーブメントセミナー2025 in 鳥取

□指導員制度専門委員会(佐藤副会長 田中安理常務理事)

主 催： (公社)日本女子体育連盟 鳥取県女子体育連盟
期 日： 2025年9月13日(土)・14日(日)
会 場： 三朝町総合スポーツセンター
後 援： スポーツ庁・(公財)日本学校体育研究連合会
講 師： 佐分利育代、佐藤廣子、田中安理、細川江利子、村田芳子(プログラム順)
参加者： 77名(講師・スタッフ等含む)
参加費： 4,000円

<概 要>

本大会では生涯スポーツと学校体育の振興に寄与する人材育成を目指す講習会として、5名の講師陣による講義、実技の講習会を2日間で開催した。学校体育・生涯スポーツそれぞれの魅力とつながりをより強く感じる有意義でアットホームなセミナーとなった。

詳細については、『女子体育』2025年秋号で報告した。

4)「JAPEW ダンスムーブメント指導員」養成事業 (略称 JAPEW-DMIL)

□指導員制度専門委員会(細川会長 田中安理常務理事)

①「JAPEW ダンスムーブメント指導員」養成講習会

<A級-第19回、B級-第23回、C級-第26回>

期 日： 2025年8月18日(月)・19日(火)・20日(水)
会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管： (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容： 理論、実技 計21時間
2日間開催される JAPEW SUMMER SEMINAR 2025 (講演、講義、実習、実技)を読み替えることに加え、2日目の夜の講義および3日目の実技および講義という内容で開催された。
講 師： 金井芙三枝、田中喜代次、富松“まぎょ”万里子、高嶋雄一、飯田義明
高橋眞琴、佐藤廣子、飯田路佳、田中安理、多田五月、篠史美
受講者： 今年度資格取得希望者 A級6名、B級2名、C級1名 計9名
受講料： 会員・一般・学生 16,500円

②「JAPEW ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期 日： 2025年10月3日(金)・4日(土)・5日(日)
会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管： (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容： 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験
講 師： 細川江利子、宮本乙女、佐藤廣子、飯田路佳、片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、村田芳子、
笹本重子 田中安理、多田五月
受講者： A級6名、B級2名、C級1名
合格者： A級5名、B級2名、C級1名
検定委員： 細川江利子、宮本乙女、佐藤廣子、飯田路佳、片岡康子、林眞幾子、村田芳子、笹本重子

<概 要>

A級の講習は3年ぶりとなり活気ある講習会であった。A級は一次審査を経て全員通過し検定講習会へ挑んだ。詳細は『女子体育』2026冬号で報告した。公認指導員現数は120名(2026.03.01現在)。

③「JAPEW ダンスムーブメント指導員」クリニック

期 日： 2025年8月20日(水)
会 場： 国立オリンピック記念青少年総合センター

主 管： (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内 容： 実技研修

講 師： 笹本重子、片岡康子、田中安理、多田五月、宮本乙女(プログラム順)

受講者： S・A・B・C級有資格者 44名

受講料： 6,600円

<概 要>

クリニック講習会は指導者としてのスキルアップを目的として開催される。新設される「JAPEW-DM-i」のダンス作品を初披露するコマを設け、熱心に受講している様子であった。

3. 機関誌その他の学術刊行物の発行

1)『女子体育』編集発行

□『女子体育』編集専門委員会(宮本副会長 田巻常務理事)

刊 行： 通常号は季刊(年間4回)とした。他に、AJDF神戸特集号を発行、合計5回とした。

春号：4月8日発行、夏号：7月8日発行、秋号：10月8日発行、冬号：1月8日発行

AJDF特集号：11月10日発行

体 裁： B5判。通常号64頁、AJDF神戸特集号80頁とした。

購読料： 年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円、JAPEWダンスムーブメント指導員4,000円。

通常号、特集号共に、1冊売りは1,320円(税込)。

刊行方針：ダンス指導について先進的に世に提案していく。これまで同様、理論に裏打ちされた実践的な内容を掲載し、現場の保育者、教師、生涯スポーツの指導者、体育やダンスを学修する学生の、実践や研究に資する雑誌を目指す。

年間テーマ：「ウェルビーイングとダンス」

2025年度は「ウェルビーイングとダンス」を年間テーマとし、持続的な幸福にむけダンスが果たせる役割と可能性について探求した。

各号テーマ：

○春号 集い、遊び、踊る

○夏号 「強み」を活かす

○秋号 豊かに生きる

○冬号 つながりの中で

○特集号 第37回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)特集号

<概 要>

2021年度に①他誌との違いを出すこと、②『女子体育』という名称により、女子や女子教員を対象とした提案であるという誤解を招くため、表紙デザインの中に「Dance Education for All」のロゴを配置して、ダンス教育に関する雑誌であること、の2点を特に強調してリニューアルを図ったが、刊行物としての認知度は未だ低く、購読者数増加に繋げることはできなかった。

2025年度は表紙デザインを一新し、新しい年間テーマとともに刷新を目指した。表紙に目次を掲載することは好評を得ているため継続して掲載した。また、新連載として「Balance and Harmony～こころとからだの声を聴く～」を展開し、日々の指導に活かせる具体的な内容を提案できた。

2)『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』発行

□『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』編集委員会(細川会長 福本理事 原田理事)

『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第42巻を発行した。論文の投稿は全6件あった。筆頭著者6名、共著者10名(うち非会員3名)。論文1件につき2名から3名の審査者(全15名)に依頼した。最終的に3件を掲載した。

3)『JAPEW 創立60周年から70周年の記録』冊子の作成

□『JAPEW 創立60周年から70周年の記録』編集委員会(宮本副会長)

JAPEW70周年(2024年)を機に10年間の記録をまとめた冊子を発行した(2025年12月)。

4. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

1) 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

第37回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 37th All Japan Dance Festival-Kobe

□AJDF-Kobe 専門委員会(細川会長 寺山常務理事 渡辺理事)

期 日： 2025年8月5日(火)・6日(水)・7日(木)・8日(金)

会 場： 神戸市／神戸文化ホール・神戸市立中央体育館

主 催： (公社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会

主 管： 第37回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 実行委員会

後 援： スポーツ庁、(公財)日本スポーツ協会、NHK(日本放送協会)、
(公財)全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、兵庫県教育委員会、
(公財)神戸市スポーツ協会、(公財)ミズノスポーツ振興財団

協 賛： ミズノ株式会社、(株)フォトスタジオ八木

協 力： (公財) ユーハイム体育・スポーツ振興会

内 容： ①開会式 対面開催(出演関係者のみ参加)

②創作コンクール部門(高校／予選・決選、大学／予選・決選)

*予選、決選 有料公開(全席指定) 学割席(出演関係者のみ)

③参加発表部門 *有料公開(全席自由) 学割席(出演関係者のみ)

④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品)

*特別プログラムは大ホールにて有観客2回公演 有料 全席指定

表 彰： 文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1)、
特別賞(高大各4)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)

参加校数：①創作コンクール部門 高校/76・大学/22 計98校

②参加発表部門 高校/25・大学/12 計37校

参加人数：①創作コンクール部門 高校/1,418・大学/393 計1,811名

②参加発表部門 高校/433・大学/183 計616名

参加都道府県数：25

TV放映： NHK Eテレ 8月23日(土) 15:00～16:00

その他：・第20回大会記念DVD(20年間のテレビ放映映像を含む総集編)や過去大会の記録DVDを提供

・第37回大会の記録DVD(Blu-ray)と『女子体育』報告特集号の申し込み

・大会の詳細を『女子体育』AJDF特集号に報告

<概 要>

第37回大会は36回大会の基本的な方針を踏襲しつつ、開催した。参加者数は延べ2,427名、参加校数は135校であった。

前回大会からの大きな変更点は、場当たりを再度開催し、参加校1校の持ち時間を例年行っていたものよりも減らして運営を行ったことである。

今大会も、大会役員・委員(総務・上演・アナウンス・審査・式典・受付・会場・楽屋)83名の他、舞台スタッフ(舞台監督・照明・音響)、各業者(日本旅行・写真・印刷・HP)等、多くの人々の力が結集し、無事に大会を終えることが出来た。

2) 国際的な研究交流事業

□国際交流専門委員会(細川会長 田中葵理事 福本理事)

① 国外の体育・スポーツ・ダンス推進団体との連携、情報交流

・国際女子体育連盟(IAPESGW)との連携

・JAPEWHP「国際情報」ページや機関紙「女子体育」にて、IAPESGWの情報や、CID(International Dance Council 国際ダンス協議会)、IWG(International Working Group on Women and Sports 女性とスポーツの国際ワーキンググループ)等海外における国際的な女性と体育・スポーツ・ダンス関連の情報を配信した。

② インターナショナル・ダンス・ワークショップの開催

期 日： 2025年9月27日(土)13:30-16:30

会 場： 武庫川女子大学 中央キャンパス G1-35 ダンス室

主 催： (公社)日本女子体育連盟

講 師： 木田真理子 (芸術文化観光専門職大学・准教授)

内 容： 国際的活動経験のあるダンサーによるワークショップと海外での就労経験についてのトーク

受講料： 会員 3,300 円、一般 5,500 円、学生 2,200 円

<概 要>

本ワークショップは、国際的な活動経験のあるダンサーを招聘し、その技法や作品創作法についてのワークショップと、海外での就労/留学に関心のある学生に向け、海外で就労した経験についてのトーク時間も設けている。今年度は関西地方で開催し、講師として木田真理子氏を招聘した。申込者は 26 名 (会員 1 名、学生 22 名、高校生 2 名、一般 1 名 *当日欠席 4 名) であった。参加者による事後アンケートでは、内容・費用とも満足度は高く、「身体の可動域を広げる動きや、相手を感じる時間や空間を意識すること、普段味わえない全体を研ぎ澄ます素敵な時間になりました。」「世界的に有名な振付家と触れ合った方から聞けるお話はとても素敵で、非常に興味深いものでした」等の感想が寄せられ、満足度は高かった。詳細は『女子体育』2026 冬号にて報告している。

③(公社)日本女子体育連盟の活動情報の国外への発信

ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1)JAPEW 賞顕彰

□JAPEW 賞選考委員会(細川会長 飯田常務理事)

JAPEW 賞は社団法人(当時)日本女子体育連盟創立 50 周年を記念して、2004 年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の 2 賞が制定されたが、2012 に新たに「功労賞」が制定され、3 賞となった。さらに連盟創立 60 周年を期に新たに 2014 年度に「松本千代栄賞」が制定された。本年度は功労賞および指導者賞について候補者の推薦があり、2025 年 5 月 26 日、5 月 29 日に各賞の選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。JAPEW 賞表彰式は、「JAPEWSUMMERSEMINAR2025」(2025 年 8 月 18 日・19 日)の開講式前 (8 月 18 日 9:00 より) に開催した。なお、受賞者氏名は機関誌『女子体育』誌上および HP 上で公表した。

① 第 12 回松本千代栄賞

受賞者 該当者なし

選考委員会(委員長)細川江利子

(委 員)宮本乙女、山西哲郎、片岡康子、高橋和子、村田芳子、八木ありさ

② 第 14 回JAPEW 功労賞

受賞者 遠田佳代子氏 (鳥取県)、高橋るみ子氏 (宮崎県)、福井みどり氏 (兵庫県)

選考委員会(委員長)細川江利子

(委 員)佐藤廣子、片岡康子、村田芳子、高橋和子、八木ありさ、高橋眞琴

③ 第 22 回JAPEW 指導者賞

受賞者 幡野満美氏 (山梨県)

選考委員会(委員長)細川江利子

(委 員)佐藤廣子、本村清人、林眞幾子、笹本重子、飯田路佳、熊谷佳代

④ 第 22 回JAPEW 研究奨励賞

受賞者 該当者なし

選考委員会(委員長)細川江利子

(委 員)宮本乙女、寺山由美、原田純子、村田芳子、高橋和子、八木ありさ

6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1)広報・普及活動

□広報普及委員会(飯田常務理事)

①各加盟団体との連携の推進

各加盟団体との IT 化の推進を進めた。まだ連携を取れていない団体もあるので、次年度も引き続き進めていく。

②『女子体育』購読促進活動

新規 (新卒学生含む) 購読会員獲得のために、研修事業において、事務局・総務・編集委員会との連携を

はかり、出張販促をおこなった。

結果として、AJDF 神戸号の団体購読は減ってしまったが、新規購読会員は微増した。

③ホームページの管理及び内容の充実と開示情報の更新

各専門委員会と連携し、情報発信の敏速性と HP の充実をはかった。また、事業報告、事業計画、財務諸表（決算書・予算書等）の情報を公開した。

④『（公社）日本女子体育連盟 学術研究』の電子化

『（公社）日本女子体育連盟 学術研究』第 41 巻を電子ジャーナルとして J-STAGE に公開した。

⑤JAPEW 事業に関連する動画の制作と公開

「令和 7 (2025) 年度総会用」の資料として、令和 6 (2024) 年度の年間事業をとりまとめた動画作成を行なった。

⑥JAPEW に関連する公式 SNS の管理

JAPEW の活動内容の情報ツールとして SNS(Facebook 等)に関する管理を行なった。

⑦その他

- ・ Web やネットワークに関するアンケート等に対応した。
- ・ JAPEW の広報を目的としたリーフレット制作に向けて検討を始めた。令和 8 年度中に完成予定。
- ・ JAPEW 公式 HP の 1 ヶ月毎の利用状況について、WIX を通じてホームページのアクセス解析等を行い、まとめと報告を行った。

2) 物件の賃貸に関する事業

(佐藤副会長)

本連盟が所有する神宮前コーポラス（319号室）を賃貸の用に供した。

3) 全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）の DVD・Blu-ray の有償提供

□AJDF-Kobe 専門委員会(細川会長・寺山常務理事・渡辺理事)

全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）の受賞作品及び自校作品の映像を、大会参加校に有償提供した。

4) 運営体制の充実を図るための取組

(細川会長)

理事には、JAPEW からだけでなく加盟団体の長（正会員代表）からも選任した。また、監事には、本連盟では初めて外部より男性を 1 名登用した。以上の取り組みにより、様々な意見が本連盟の運営に反映されるような体制を整えた。

理事・監事の役割を全うしていただくために、理事会前に理事会資料を提供し事前質問を可能とした。また、理事会当日には資料を説明し、質問事項や本連盟の運営に関する意見を頂く機会を設けた。さらに、理事会以外の平時であっても、本連盟の運営等に関するご質問、ご意見を受け付ける体制としていた。